

## 第2章 基本目標Ⅱ：自然共生

### みどりや生きものの豊かさを育み、人と自然がつながるまち



#### ① 豊島区の現状

#### ● 生物多様性に関する豊島区の状況（資料 P.85）（用語解説 P.104・107）

##### ▶ 緑被率の推移

令和元年度に行った緑被現況調査では、区内の緑被面積は 172.16ha で緑被率は 13.23% でした。

昭和 49 年からの推移では平成 9 年までは緑被全体が減少していましたが、平成 16 年以降は増加しています。開発時における緑化指導による新たな緑地整備や既存樹木が大きく育ったことが要因と考えられます。また、平成 9 年度調査までは 10㎡ 以上（水準Ⅱ）の緑被を調査対象としていましたが、平成 16 年からは 1㎡ 以上（水準Ⅰ）を対象とすることが可能となり、街路樹、住宅地の庭木、集合住宅や事業所の植え込みなどの小規模な緑被をカウントしていることも大きな要素のひとつです。平成 27 年から令和 2 年の推移では、緑被率は 12.9%⇒13.23% と若干増加しています。

項目	面積 (ha)	構成比 (%)
人工構造物被覆地以外	197.71	15.20
緑被地	172.16	13.23
樹木被覆地	151.45	11.64
草地	14.41	1.11
屋上緑化	6.30	0.48
裸地	24.64	1.89
水面	0.91	0.07
人工構造物被覆地	1,103.29	84.80
合計	1,301.00	100.00

##### ▶ 緑被率の計測方法について

緑被率とは、樹林・草地、農地、園地などの緑で覆われる土地の面積割合で自然度を表す指標の一つです。夏に撮影した空中写真などを測定データとして用いており、平面的な量の緑を把握するための指標です。（重層的な緑（植えたばかりの樹木等）の量を測定することは困難となります。）

出典：豊島区緑被現況調査

## ② 施策の実施状況

### リーディングプロジェクト

#### ●みどりやビオトープの維持管理（資料 P.85）（用語解説 P.106）

区で取り組んできた緑化、学校・公園等において創出したみどり空間やビオトープを適切に維持管理し、生物多様性の保全を図っています。

小学校の改築に合わせて設置されたビオトープは、子ども達の学習・体験の場として活用されています。



池袋第一小学校



長崎小学校

また、地域住民等との連携による樹木やビオトープの維持管理を推進しています。令和5年度は、池袋本町電車の見える公園と南長崎はらっぱ公園で過去に植樹された「いのちの森」の手入れ活動を行いました。

実施場所	参加者数
池袋本町電車の見える公園	76名
南長崎はらっぱ公園	41名



池袋本町電車の見える公園の様子



南長崎はらっぱ公園の様子

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
学校・公立公園の ビオトープ数（累計）	19か所	21か所	20か所	20か所	
地域が管理する公園 ・ビオトープの数	3か所	3か所	3か所	3か所	

## リーディングプロジェクト

### 《評価・分析》

区民をはじめとし、区に集う人々にとっての安らぎの場となるみどり空間を維持するとともに、自然への関心を深める学習や観察の場所としてはもちろん、保護者や地域の方々と子ども達とのコミュニケーションの場となっています。

### 《今後の取組み》

ビオトープについては、引き続き、学校の改築時に設置を進めます。また、みどりなどの保全是、今後も区民や地域との連携による維持管理を推進するとともに、協働による維持管理体制の構築を検討していきます。(環境政策課 環境計画グループ・事業グループ 公園緑地課 緑化推進グループ 学校施設課 学校改築推進グループ)

### 【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

Ⅱ-3 人と自然のつながりを深めるまちをつくる

## ● 生物多様性支援事業 (資料 P.85)

生物多様性の普及啓発・保全に向けて、区内の自然環境を把握するモニタリング調査を実施し、収集した情報を多様な主体と共有する仕組みを構築します。

令和5年度は、区民参加型調査「としま生きものさがし」を行いました。また、南長崎はらっぱ公園内ビオトープの管理を引き続き区民団体と協働で行いました。さらに、区内小中学校のビオトープの生態調査も実施し、改善点と今後の維持管理の提案を行いました。



植栽したアサザ  
(南長崎はらっぱ公園)

### 《評価・分析》

南長崎はらっぱ公園内のビオトープでは、区民団体との連携によりアメリカザリガニの捕獲をしています。

アメリカザリガニは雑食性で、ビオトープ内の水草や生きものを食害するため捕獲しており、平成29年度からの累計は2,347匹となりました。その結果、平成30年度から引き続いてトンボ類の幼虫(ヤゴ)を確認することができており、継続した取組の効果があらわれています。また、かつてビオトープに植生していたアサザを試験的に植栽し、モニタリングを開始しました。

長崎小学校のビオトープでは、都のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のアズマヒキガエルの繁殖が確認できました。小規模なビオトープであっても生きものに繁殖の場を提供でき、非常に意義のあることと考えられます。今後もこの状態が維持できるよう、水生植物の管理や外来生物が放流されないように注意喚起を継続して行うなどの提案をしました。

### 《今後の取組み》

専門家による生物多様性モニタリング調査とこれまでの区民参加型調査の報告をもとに作成した、区内の生きものを紹介する「としま生きものガイドブック」の配布により、多くの区民の皆さまと区内の生きもの情報を共有していきます。

また、令和6年度は区立小学校3校のビオトープの生態調査を行い、区内の生物多様性を高める取組みをしていきます。区内の数少ない水辺環境であるビオトープの生物多様性を高めることにより、生きものの生息地を確立することを目指します。(環境政策課 環境計画グループ)

### 【関連する環境基本計画の施策の方向】

Ⅱ-1 生物多様性を保全する

### ● としま生きものさがしの実施（資料 P.85）（用語解説 P.100）

自然や生きものへの関心を高めていただくために、区内にどのような生きものがいるのかを区民の皆さま自身が調べる「としま生きものさがし」を行いました。調査期間中（6月～9月）に見つけた生きものを記録用紙に記入して報告していただきました。報告件数は、1,973件。その内チョウの仲間が最も多く725件、続いてセミの仲間234件、トンボの仲間215件と続きました。



区民の皆さまからいただいた情報は、ニュースレター発行の他、環境省の生きもの情報共有システム「[いきものログ](#)」を活用し、区内の生きもの情報を広く共有しています。

成果指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
生きもの調査に参加する 区民の数(累計)	283人	1,258人	733人	1,195人	

### 《評価・分析》

引き続き多くの区民の皆さまに参加いただくことが出来ました。令和5年度は、区立小学校や区立保育園、区立幼稚園への呼びかけを行ったほか、ファーマーズマーケットでのイベント開催も行いました。

また、小学校・保育園等、団体での参加も多く、過去最高数の307人の方に参加いただきました。今後もイベント等における調査ガイドの配布や情報発信を行い、身近な生きものへの興味を広げていきます。

## 《今後の取組み》

小学校や保育園等については、さらに本取組みを活用していただけるよう、引き続き連携を呼びかけていきます。例年、報告件数の多い、区内でも多くのみどりを有する雑司ヶ谷霊園やイケ・サンパークとも連携し、幅広く情報発信を行っていきます。(環境政策課 環境計画グループ)

### 【関連する環境基本計画の施策の方向】

#### Ⅱ-1 生物多様性を保全する

## ● 池袋駅周辺の公園整備

公園の整備により、人々の生活にやすらぎや潤いをもたらすみどり空間を創出しています。

令和2年12月に全面オープンした区内最大の公園となる『としまみどりの防災公園(イケ・サンパーク)』は、南池袋公園の約3倍の芝生広場があり、新たな賑わいの場として、災害時には区全体の防災拠点として今後の利活用が期待されています。



イケ・サンパーク

また、本公園ではSDGsモデル事業の第1弾として「イケ・サンパーク ファーマーズマーケット」が開催されています。ファーマーズマーケットは、原則毎週末開催され(夏期休止期間あり)、埼玉県の新鮮な農産物をはじめ、区内の名産品、交流都市の特産物などが出店し、イケ・サンパークから新たな日常が始まっています。

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
公園の整備面積 (整備済面積)(累計)	21.1ha	25.4ha (R14年度)	23.0ha	23.6ha	

## 《評価・分析》

令和5年度は東池袋五丁目公園と雑司ヶ谷三丁目広場の新設に伴い、実績値は目安値を上回る結果となりました。

## 《今後の取組み》

令和6年度は、南長崎六丁目児童遊園と南大塚二丁目児童遊園の改修を行う予定です。毎年2公園以上を目標に全面改修整備を行っていきます。(公園緑地課 緑化推進グループ)

### 【関連する環境基本計画の施策の方向】

#### Ⅱ-2 みどりを保全・創出する

### ③ その他の成果指標と取組指標

#### ● 成果指標

成果指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
緑被率	12.9%	13.3% (R14年度)	13.1%	13.2%	
緑視率が25%以上の 箇所の割合	16.8%	16.9% (R14年度)	16.9%	20.4%	
みどりの協定 団体数	40 団体	40 団体	40 団体	50 団体	

#### ● 取組指標

取組指標	基準値 (H29年度)	目標値 (R12年度)	目安値 (R5年度)	実績 (R5年度)	目安値の 進捗状況
エコミューゼを活用した イベント・講座数(累計)	6 回	80 回	40 回	24 回	
緑化基準を満たす施設数	72%	86% (R14年度)	79%	81%	
街路樹の設置割合 (設置済割合)	78%	87% (R14年度)	82% (82.2%)	79%	

#### 《評価・分析》

「緑視率が25%以上の箇所の割合」は目標値を大幅に上回ることが出来ました。  
その他の取組指標については、目標値に届かない項目もありますが、進捗状況は概ね良好です。

#### 《今後の取組み》

令和6年度も引き続き、緑化助成制度を広報・窓口等で宣伝し、区内の緑被率を上昇させていきます。

また、「緑化基準を満たす施設数」については、緑化計画書のチェックを徹底し、成果指標を上昇させていきます。(公園緑地課 緑化推進グループ)